

デルの適合性を調べる作業を検討と呼んで調整とは厳密に区別している⁴⁾。このとき重要なのは調整に使用する洪水と検証に使用する洪水は別のものでなくてはならないという事である。

中川の場合、吉川地点において比較的精度の良い流量観測が実施されているが、昭和33年に限って流域各地で流量観測が実施された。そこで今回は次のようにして信頼性を評価した。

- 同定：33年洪水吉川地点流量記録（図-4）
- 検証：33年洪水吉川以外地点水位及び流量記録（図-5）
- ”：36年洪水吉川地点水位及び流量記録（図-6）

モデルの適合性の程度は利用者によって異なると思われるので、適合度の数量化は行っていない。

結果を見ると水位については約50cm位の範囲で適合しているようである。又流量についても全般に適合度が良いように見受けられるが、潮位の影響を受ける倉田、前波、増林、西方よりも影響のない上流の行幸、杉戸の方が適合度が良くなっている点が面白い。

改修方式・流量計画検討の立場から見れば、このモデルは十分に信頼できそうである。

参 考 文 献

- 1) 佐々木・石崎「低平地河川の流出機構と改修方式」第34回年講
- 2) 橋本・長谷川「土地利用変化を評価する流出モデル」土木技術資料 19-3
- 3) 石崎・岡田「はん濫を伴う洪水の計算」土木技術資料 18-7
- 4) World Meteorological Organization「Intercomparison of conceptual models used in operational hydrological forecating」WMO OH Report.

謝辞：本研究の遂行にあたっての江戸川工事事務所の協力がありました。又電機大小野久彦教授の御指導を頂きました。ここに感謝の意を表します。

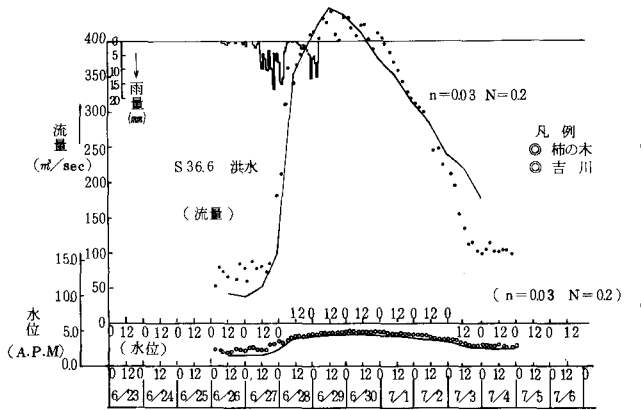


図-6 他洪水によるモデルの検討

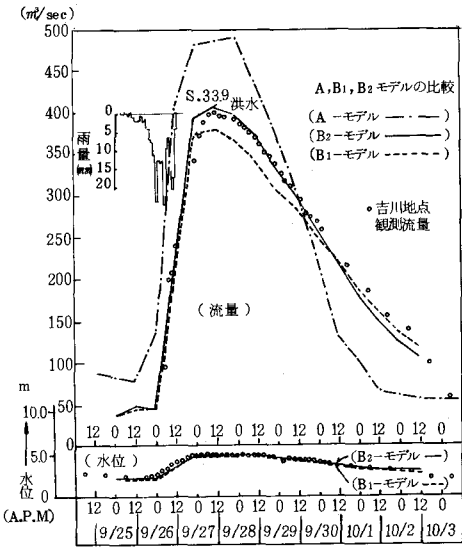


図-4 モデルの検討及同定

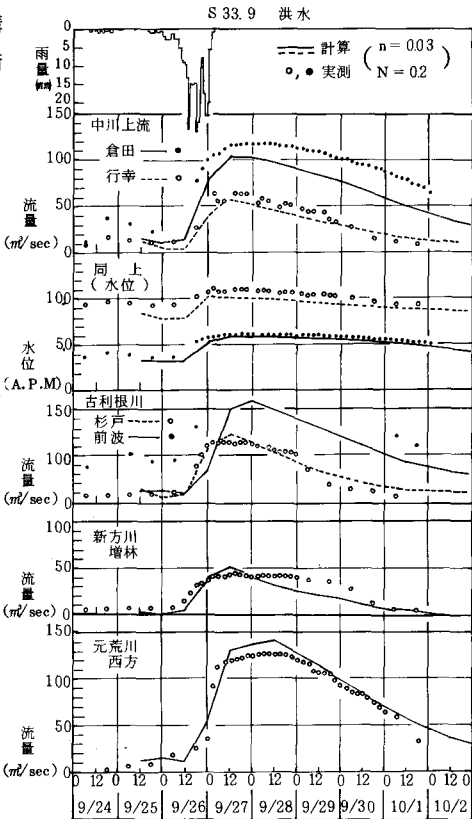


図-5 他地点によるモデルの検討